

平成30年度 第5回生駒市環境審議会 会議録

1 開催日時 平成31年2月15日（金）9時30分～10時57分

2 開催場所 生駒市コミュニティセンター404会議室

3 審議事項

(1) 第3次生駒市環境基本計画の策定について

- ・パブリックコメントの結果と意見への対応について
- ・計画（案）の最終とりまとめについて

(2) その他

(以下、敬称略)

4 会議出席者

会長 中西達也

副会長 水谷知生

委員 下村晴意 山田耕三 河瀬玲奈 上武敏一 池田憲央

竹本和靖 矢田千鶴子 横井明弘 山本裕子

事務局 石畑欽一 地域活力創生部長

奥田吉伸 市民部長

川島健司 地域活力創生部次長兼環境モデル都市推進課長

竹本好文 環境保全課長

大窪奈都子 環境モデル都市推進課課長補佐

奥田和久 環境保全課課長補佐

木戸勇 環境保全課課長補佐

大熊啓文 環境モデル都市推進課地球温暖化対策係長

竹田有希 環境モデル都市推進課地球温暖化対策係員

オブザーバー 株式会社地域計画建築研究所 森野 長澤
バー

5 傍聴者 なし

9時30分 開会

6 審議内容

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

前年度も含めて今日で8回目の審議会となる。第3次環境基本計画について、これまでしっかり皆さんに議論していただいていた。まだ案という状態であるが、今日これから事務局より報告をもらい、委員のみなさんに意見を頂く。ただし、大幅な変更はできないことが前提になるかと思う。この計画は、5年後の見直しがあり、そのあとも第4次、第5次と続いていくので、今日頂いた意見が直ちに反映できなかつたとしても、進捗状況を見直すとき、

もしくは次回の策定時に大きな意味を持つものだと思っているので、本日も忌憚りの無い活発な意見交換をお願いしたいと思う。

(3) 審議事項

以下、発言要旨。

- 中西達也会長** 会議の成立について事務局に報告を求める発言。
- 事務局** 会議の成立について報告。全委員14名のうち11名の出席により会議は成立。
- 中西達也会長** 事務局に傍聴者の報告を求める発言。
- 事務局** 傍聴者はなし。
- 中西達也会長** 案件1「第3次生駒市環境基本計画の策定について」審議を宣告。
- 事務局** 事務局に説明を求める発言。
- パブリックコメントの結果と意見の概要及びそれに対する考え方について資料1、資料2をもとに説明。
- 前回審議会以降の修正箇所について資料4をもとに説明。
- p. 42 緑地面積の割合の現状値と目標値について。修正前は緑地に生産緑地を含んでいた。平成4年に生産緑地の制度が施行されてから30年の期間(=2022年)が、次の総合計画の期間中に迎えることになる。その時に今迄含んでいた生産緑地が特定生産緑地に移行するのか、買取りの申請が出されて農地が減るのか、減少率が今の段階で読めない為、現状値から生産緑地を除いて農地全体を含まない数値で進行管理するように総合計画上修正された。それに伴い現状値と目標値を修正している。
- 緑地面積以外の数値についても、最新の現状値が確定したので、それに伴って目標値も修正した。
- p. 63 リーディングプロジェクトは計画全体を牽引する役割を果たすものであることや、設定する上で考慮した内容を記載していたが、これだけでは具体的内容やどのように進めていくかわかりにくいという指摘を受け修正した。
- 中西達也会長** 委員に質問、意見を促す発言。
- 河瀬玲奈委員** 資料4 p. 42「再エネによる発電容量の合計の現状値」の修正後の値が計画(案)と異なるが、どちらが正しいか、との質問。
- 事務局** 計画(案)にある24, 245kWが正しく、資料4が間違っているため訂正したい、との回答。
- 河瀬玲奈委員** 資料2にある意見に対する考え方の回答方法について、一問一答方式で答えなくてよいのか。例えば、No.7の意見については考え方欄では触れられていない。No.8の意見には丁寧に回答されているが、対応しないと無回答になっているように感じる、との発言。
- 事務局** No.7、8、9は同じ方のご意見で、コージェネレーションシステムを導入してはどうか、という趣旨で共通している。コージェネレーションシステムは再エネでもあるし創エネでもあると考えるため、省エネについて記載している部分にしっかり記述をし、No.7、9については省略した

書き方になっている。少し丁寧さに欠けるかもしれないのでもう少し加筆する方向で検討したい、との回答。

**中西達也会長
事務局**

検討をお願いしたい、との発言。

資料4 p. 42「遊休農地活用事業で利用されている農地面積の目標値」について、計画(案)と値が異なる。計画(案)が正しいので資料4を訂正する。また、資料4「自然環境の指標名」が、「緑地の面積の割合」となっているが、「緑地面積の割合」に訂正する、との発言。

横井明弘委員

「効率的な汚水処理施設整備基本計画」は平成23年の計画か、との質問。

事務局

平成23年に策定した計画である、との回答。

横井明弘委員

合併処理浄化槽への補助は、設置費用に対してどれくらいの割合で出しているのか、との質問。

事務局

槽の大きさなど条件によって異なるが、一つの目安として、5人槽で高度処理型のもので481,000円となっている、との回答。

横井明弘委員

実際はその倍くらい費用がかかるのか、との質問。

事務局

業者によっても違う為一概にいけない。窒素、リンを除去するものなど色々なタイプがあり金額が変わる、との回答。

中西達也会長

今の質問に関連し、例えば費用の50%を補助という話ではなく、上限額を設けているという考え方で良いのか、との質問。

事務局

上限金額である、との回答。

上武敏一委員

計画(案) p. 11 ①にある人口推移グラフに65歳以上の人口データを併記すれば良いのではないか。生産年齢人口や18才未満の人口なども追加できればよいが、あまり入れるとややこしくなる。高齢化を問題視するのであれば、そのデータをプロットすればより見やすくなるのではないか、との提案。

資料4 p. 42再エネによる発電量の目標値が書いてあるが、生駒市全体での発電量はどれくらいあるのか。これから工業団地を誘致するのであれば当然消費電力も増えてくる。GDPが増えると一人あたりCO₂排出量も増えていくと思う。GDPの内訳も書いておかなければいけないのではないか、との発言。

中西達也会長

p. 11では、人口の増減だけでなく高齢化がすすむことを問題視している。意見の通り、高齢化率などをわかるように工夫したら良いと思う。

p. 42 市全体のエネルギー消費総量はわかるのか。GDPと産業との関連性をふまえて、意見、質問があったがどうか、との質問。

事務局

「生駒市の環境」には、エネルギー消費量を記載している。H28年度実績は6,681.8TJとなっている。発電量との関係は、エネルギー単位の違いにより相関関係を確認しにくいかわからない。市としては、発電量を増やしてもエネルギー消費量を減らさないと自前の電源でまかなえる量が増えないので、再エネを増やし、省エネを進める2本立てを進めているところである。エネルギービジョンというエネルギー分野に特化した計画があるが、H30年度の目標で基準年度(H18年度)比5%減という目標を立てており、それに関してはH28年度の時点ですでに目標

値を越え9.5%削減が進んでいる。消費量を減らして発電量を増やす。両にらみでやっていきたい。

市のGDPについて、詳細は把握していないが規模としては非常に小さい。GDPが増えればエネルギー使用量も増えるというのはその通りだと思う。経済活動が活発になることでエネルギーが増えるのは仕方ないことだと思うが、それと同時に設備の最新化を図るなど省エネ対策をすすめて消費量を減らすことが肝要かと思う、との回答。

上武敏一委員

生駒市も製造業をどんどん増やしていこうという方針なので、CO₂排出量が増えていくと思う。1人あたりの排出量で見ると増えてしまう。GDPと併せて記載すればいいのではないか。排出の内訳が工業なのか一般的なのか、運輸なのか、ジャンルの中で製造業の比率は増えてくると思われる、との発言。

事務局

進捗管理していく時に、民生・家庭部門から排出されるもので何%、産業部門で何%など、しっかり把握して対応していきたい、との回答。

上武敏一委員

緑地を伐採して工業団地を作った場合のCO₂はどうなるのか。緑地は計算しないとのことだったのであまり関係ないのか、との確認。

事務局

以前、河瀬委員にもご指摘いただいたが、緑地を増やすことによってマイナス効果がでることで、CO₂排出量をカウントしていくことはある。今ある緑地を伐採することでCO₂排出量に影響があるという算定の仕方は、聞いたことがない、との回答。

上武敏一委員

あまりCO₂排出量にこだわると産業活動ができなくなる懸念がある。生産など付加価値を生み出している割に、(エネルギー面では)効率的ですよ、という形のものがあればいいと思う、との発言。

中西達也会長

問題意識として数値を人口割りにすると1人歩きしてしまい、あたかも悪くなっているだけに見え、過程の努力がまったく見えないのではないかとこの指摘ではないかと思う。前向きな指摘で、どうするのかは難しいところではあるが、問題意識が大事。生駒市も経済を停滞させることを考えているわけではない。当然これから色々な誘致もでてくるであろう。その時に1人あたり排出量が足かせになるのではないかということ。「進捗状況を出す時には、家庭、産業など、部門別にしっかり確認していきたいと思う」、「行政としても問題意識を持っている」ということを示せばよいのかと思う、との発言。

矢田千鶴子委員

本件に関連し、p.42の本文中にある「環境マネジメントシステムを活用した評価を行う」との記載をもう少し詳しく、今の会長の意見も触れた書き方にしてもらいたい。環境マネジメントシステム自体を知らない人がたくさんいる。環境マネジメントシステム推進会議の専門チームの原因分析では、商業施設など産業や人口が増えたというようなことも含めて検討している。それを本文にも反映したら、本件もカバーできるのではないかと思う、との発言。

中西達也会長

p.42 上から3段落目。「マネジメントシステムを活用した評価」の部分に資料2に記載がある「専門チーム会議において達成状況の確認を行い～」を追記すると環境マネジメントシステムというものの意味や「そ

こでもっと専門的に分析してやっているのだ。」というメッセージも伝わると思う。確かにパブリックコメントに対する回答でこう答えるのであれば、皆さんに対しても答えておいたほうが良いのではないか、と思う。検討してほしい、との発言。

水谷知生委員

資料2 No.2にある「良い地産地消・悪い地産地消」について、参照する新聞の内容がわからない。「地産地消」はこの計画の中でキーワードになっている。答え方として、新聞に書いてある「悪い地産地消」とは何なのか具体的に書いてあると、意見を言った本人だけでなく読む側の市民の皆さんにもわかりやすいと思う。

資料2 No.5 下水道普及率について、「下水道普及率については、第3次環境基本計画では計画の目標年度である2023年に・・・」と記載がある。目標年度について計画(案) p.7では「基本計画は、10年後の2028年度を目標年度とします。」と記載されている。基本は10年であるが、代表指標と目標値は2023年となっており、目標年度が2つ出てきている。パブリックコメントの回答では「計画の目標年度」として2023年と言っている。「目標年度」の使い方がわかりにくい。全体の目標年度は10年後、代表指標と目標値については5年後、ということであるならば、後者を別のワードにしないと混乱するのではないか。p.7に目標年度が2つ並ぶので区別して書いた方がよい。それに対応しパブリックコメントの記載も整理した方がよいのではないかと思う、との発言。

中西達也会長

資料2 No.2について、質問された人はわかるだろうが、他の人はどうかということなので、工夫してもらいたい。

計画(案) p.7 について、目標年度が2つありわかりにくい。2023年度を「中間目標年度」と記載すればよい。パブリックコメントの回答を含め全て「中間」をつけるようお願いしたい、との発言。

横井明弘委員

資料2 No.5 下水道普及率について、「効率的な汚水処理施設整備基本計画」において2023年度の数字が出ていたため確認した。2023年度には80%近い普及率でないと目標を達成しないものとなっている、との発言。

事務局

担当課に確認したところ、平成23年度に策定された「効率的な汚水処理施設整備基本計画」において、現状目標は未達となっているようだ。第6次総合計画の策定にあたり現状値を把握しなおし、5年後までの目標数値は見直し反映させているということだった。しかし、2030年度まではまだ見直しができているため、2030年度までに85%という数値が生きている。中長期の計画も2、3年後に見直すということだった、との回答。

中西達也会長

事務局の回答は、実は5年後までは見直しがあったが、85%という数値も今は生きているがそれが維持できるかわからないということによいか、との確認。

事務局

そのとおりである、との回答。

中西達也会長

2030年度85%という数値が生きてはいるものの、見直しがあったということ。そのため、これを前提とした数値目標を立てにくい、少

なくとも2023年度について環境基本計画ではこれくらいにしておこうということなのかと思う、との発言。

具体的な数値は記載せずに、「中長期的な下水道普及率については別途『効率的な汚水処理施設整備基本計画』の中で設定しております。」というような表現はどうか。具体的な数値を入れると横井委員と同様の疑問を抱く方もいると思う。数値が出てしまうと、それが確たるものとして1人歩きをするという怖さがある。見直す可能性がある数値については触れないというのも手段ではないか、との発言。

事務局

下水道担当課と調整し表現等を再考したい、との回答。

上武敏一委員

感想として、下水道普及率が低いのだなと感じている。もっと高いと思っていた、との発言。

中西達也会長

現在、工事をどんどん進めている状況か、との質問。

事務局

進めている状況ではあるが、新しいエリアを設定して進める点については見直しが入っていると聞いている、との回答。

矢田千鶴子委員

資料2 No.1の意見についての考え方で、「より多くの市民にわかりやすく伝わる工夫を継続していきたい」とある。リーディングプロジェクトを設定してはいるが、これから必要に応じて新しいプロジェクトを設定することもあるかと思う。だれがどうするのかという点について少し曖昧であるので、より具体的なことを記載できないものか。もう少し市民の皆さんに、働きかけができればいいと思った。

資料2 No.2 日本経済新聞に掲載された「良い地産地消、悪い地産地消」について、先ほど事務局より説明があった。経済的な側面からの論であると感じた。安全な電気は経済性とマッチするのだろうか。現在、色々な意見が出てきている。4つの観点は日経新聞が言っているものであり、世間一般としてはどうか。特に「市場メカニズムを軽視する」とか「経済性の不透明さ」などを出されると、再エネ・創エネなど安全な電力を考えた時にいかななものか。色々な立場の人が関わっていると思うので、一方的な論にはできないのが行政の立場であると思っている。

計画(案) p. 51にある各主体の取組で、下水に関することは市民の取組のトップに上げられている。それをふまえて、p.6の関連計画に「効率的な汚水処理施設整備基本計画」が上がっていてもよいのではないかと思った、との発言。

中西達也会長

No.1「伝える工夫」と今書いているが、もう少し具体的に書けるようであればお願いしたいということ。検討してほしい。

No.2 環境と経済は同じベクトルを向いているものもあれば、別のベクトルを向いているものもある。ここでどちらのベクトルを向いているのが正しいのかという議論をする必要はまったく無いが、環境ばかり、経済ばかりという見方をされるのも本来望ましいものではない。例えば回答に「日経新聞では悪い地産地消として①～④このような内容が挙げられています」ということを説明し、そうはならないように努力します、という記載でよいのではないか。①～④それぞれに答える必要はないと思う。

No.5 p. 6 関連計画に下水道の計画をあげてもらえればとのこと

あった。検討をお願いしたい、との発言。

水谷知生委員

「悪い地産地消、良い地産地消」について、回答部分最後に「良い地産地消となるよう取組を進めてまいります。」と答える必要は無いと思う。それだと日経新聞の「悪い、良い」を、そのまま受けていることになる、との発言。

中西達也会長

確かに、「良い・悪い」にすると、日経新聞の土俵に乗ることになる。紹介のみにしておいて対応する形で検討してほしい、との発言。

資料4 p. 42で説明された、「緑地の確保面積」と「緑地面積」について意味は違うのか、との質問。

事務局

生産緑地が入っている場合は緑地として確保されているからこれまで確保面積としていたけれども、生産緑地として確保されていたものを除いたために緑地面積になったのだということだった、との説明。

河瀬玲奈委員

p. 57 コラム欄に図が掲載されているが、この図はオリジナルで作成されたものではないと思う。その場合、下部に「出典」を書かなくてよいのか、との発言。

事務局

前回までの案では書いていたが、今回編集の都合で消えてしまっていたため、正しく表記しておく、との回答。

事務局

今回出された様々な意見について、事務局で修正案をつくり、会長、副会長に確認、決定したいと考えているがそれでよいか、との確認。

各委員

異議なし。

中西達也会長

修正については責任を持って、会長・副会長で対応する。

案件（1）についての審議を終了。

案件（2）「その他」について審議を宣告。

事務局

①資料3は、1月14日に開催した第6回市民ワークショップの概要をまとめたものなので、確認してもらいたい。

②今後のスケジュールについて。今回とりまとめられた最終案を元に、第3次生駒市環境基本計画を策定する。それを3月市議会で報告した後に来年度から新しい計画に基づいて施策を実施していきたいと思っている。

③環境基本計画の下位計画である環境モデル都市アクションプランも現在第2次を策定中である。計画期間は2019年4月からの5ヵ年となっている。第2次環境モデル都市アクションプランができあがったら審議会委員に送付するので確認をお願いしたい。

④前回審議会で審議された環境白書だが、少し遅くなっているがまもなく完成予定となっている。これも出来次第送付するので確認をお願いしたい、との発言。

中西達也会長

審議会に参加された各委員から感想を一言ずつ発表してほしい、との発言。

池田憲央委員

自身は農業分野の団体を代表して出席している。農業でも高齢化、遊休農地などの問題がたくさんあり考えていかなければならない。計画を踏まえて検討していかなければならないと思っているところである。

竹本和靖委員

自身は2年弱前にこちらに着任し、本審議会を含め他の会議にも参加している。生駒市民の市政への参画意識が非常に高いと感じる。このような

計画もしっかり作っているので、継続的、永続的に市全体で盛り上がっていくことを切に祈っている。

矢田千鶴子委員

ECO-net生駒という組織を束ねており、これからも環境基本計画に協力していこうと思っているので、皆さんにも支援いただくようお願いしたい。

横井明弘委員

市民として参加し、下水のことしかわからないので、偏った発言となり申し訳ない。この機会に、矢田委員とも知り合えたので、生駒の環境にも関わっていこうかなと思っている。

山本裕子委員

一般市民公募で参加し、得られるものがたくさんあり勉強になった。

上武敏一委員

初めは何を議論しているかもわからなかったが、回を追うごとにだんだんわかってきた。これからも少しでも良い生駒をつくるためにがんばっていきたいと思う。

河瀬玲奈委員

実家が生駒市で、今回20年ぶり位に生駒市のものをしっかり読んだ気がする。実家を出てからすっかりご無沙汰していた。住んでいた頃からこんなふうになったのだと非常に勉強になった。非常に和気あいあいとしており、行政の会議とはこんなに楽しかったかなと思うような審議会であった。

山田耕三委員

議会を代表して参加した。非常に勉強になった。パブコメの中で出ていたように、どれだけ市民の方にわかっていただけるかが大切だと思う。小学校で使用する「かんきょういこま」にも盛り込んでもらえれば、生駒って良いまちだなあと感じてもらえるのではないかな。大きくなってからもずっと生駒に住む、そのようなまちになればと思っている。

下村晴意委員

皆さんの屈託ない意見で生駒市が発展すればありがたいと思っている。環境だけでなく、生駒は色々な面で進歩できる市になりつつある。それには行政の力も非常に大きいですが、皆さんのひとつひとつの意見がうまく活かされれば益々発展するかなと思う。意見をきかせてもらって勉強になった。

水谷知生委員

この計画を作るにあたって目標値が他に存在するなど制約条件がいろいろあり、自由に作れないということもあった。その中で色々な意見をまとめられたということで事務局には敬意を表したい。うまくまとまったのではないかなと思っている。

中西達也会長

自身は仕事でも何でも基本的に楽しくやろうということで、できるだけこういう会議や仕事の打ち合わせも楽しくやるつもりで来ていた。今回も無事終わりほっとしている。今日、この基本計画の審議も8回目になる。しんどかったな、なぜだろう、と電車で考えていた。第1次基本計画はさほど知らないが、第2次、第3次計画の策定に参加した。第1次から第2次は大きく変わった。第3次も行政が少し前が出る形で変わっている。おそらく、第1次から第2次、第2次から第3次、を前例踏襲でやると大してしんどくない。数値だけ入れ替えればよいことである。それをしなかったという行政の皆さんにも敬意を表したいと思っている。逆に言うとそれをさせなかった市民の皆さんにも敬意を表さなければいけないのかなと思っている。

第3次環境基本計画の見直し時に自分はおそらくいないと思っている

が、「ここをしっかりと議論したのだ。」ということの後任の方に引き継いでやってもらえればと思っている。

他の審議会にもいくつか参加しているが、楽しい遠慮の無い意見が市民側から出て、それを真摯に受け止める行政があり、協働が生きている審議会だったと感じている。他の審議会等で発言する機会があれば、このようなモデルがあるということを発信し、各審議会がよいものになっていくように別の方向から応援していきたいと思っている。

今日まとめた計画（案）は若干の訂正はあるが、自分と水谷副会長で市長に報告と提出に行く。議論した中味や熱意をきちんと伝えたいと思っている。

長時間ありがとうございました。

10時57分 閉会